

【活用にあって】

次の各新聞記事を読んで、答えを確認しましょう。

大人の人に使っているか聞くのも楽しいですよ。

現代 尾張弁 講座

「だいつーであーア」

■意味

知多を含む尾張地方と美濃南部に見られる。「粹な」「派手な」「上品な」

■成り立ち

漢字で書けば「大通」。「つうな人」のように使う「通」の強調形。「粹」と聞けば、七代尾張藩主徳川宗春を思い出す人もいるだろう。岐阜大の山田敏弘教授（日本語学）によれば、「大通」とは、遊興の道に通じていること。山田さんは「名古屋に遊郭を公認した殿様だったからこそ残った言葉」と話す。この点について、芥子川律治著「名古屋方言の研究」は「江戸の遊里の語が名古屋で生き生きと用いられた」と記している。

■関連語 「趣がある」との意味で「ひこつ（い）」があるが、「理屈っぽい」という意味でも使われることがある。

■使用例

（夫）あんた、であーつーさんだてその服よー似合うわ。

（妻）お上手言っても小遣い上げへんで。

■勝手にレア度

○○●●●

現代 尾張弁 講座

「おそがい」

■意味

「怖い」「恐ろしい」。愛知県内や岐阜、静岡などでも使われる。

■成り立ち

岐阜大の山田敏弘教授（日本語学）によると、「ゴジラ」が、「ゴリラ」と「クジラ」の造語のように、言葉同士を併せる生成法を言語学では「混交（contamination）」と呼び、「方言ではよく見られる」という。おそがいは「恐れ（る）」と「怖い」が混交した言葉。江戸時代の方言辞書「物類称呼」にも尾張地方などの言葉として「恐れ怖いの略語也」と紹介されている。

■関連語 少し強引だが、「こわい」つながりで、「おこわい」といえば、尾張では「赤飯」のことを表すので要注意。

■使用例

（妻）あんたがおらん時、わっかい女の人から電話があつたで。

（夫）そんな、おそがい顔せんでええて。会社の後輩の子。仕事の電話だわ……。

■勝手にレア度

○○○○●

いっつか

■意味

「すでに」「とつくに」の意。尾張で広く見られるが、三河でも散見される。

■成り立ち

疑問詞の「いつ」に、不定を表す助詞「か」が付いた言葉。「いつかはつきりわからないが」という意味。現代語では未来の出来事に使われるが、岐阜大の山田敏弘教授（日本語学）は「過去に対して用いられていけない理由はない」と指摘する。「いつだったか、こんな出来事があった」という意味で使われ、「いっつか」が「いっつか」に変化した。山田さんによると、言葉は省力化で短くなることが多いが、このような副詞は意味を強調するために長くなることがある。

■関連語 直前に完了した事には「まーはい」「もーはい」を使う。

■使用例

(母) スマホばっかいじって。今日の宿題やったの？

(子) いっつかやったて。

■勝手にレア度

○○○○●

やけずり

■意味

「やけど」の意。動詞形の「やけずる」も見られるが、「やけずりする」も使われる。

■成り立ち

語源は「焼け攣り」。傷痕が突っぱったように見えることから来ていると考えられる。岐阜大の山田敏弘教授（日本語学）によると、比較的新しい言葉で、方言としては、東海三県のほか、佐賀県でも見られ、興味深い。岐阜県の方言集には「やけどり」、三河山間部では「やきずり」「やけんずり」などの形も。山田さんは「日常語だけに口に出しているうちに大きく変化したのだろう」と分析している。

■関連語 愛知県にはやけどの別名は見られないが、岐阜県中濃、飛騨地方には「火膨れる」に由来する「ほぼくれる」がある。

■使用例

(子) であ熱いわ、このやかん！

(母) ちんちちんだで触ったらあかんって。手、やけずってまつで。

■勝手にレア度

○○○○●